

令和3年度岩美町子ども・子育て会議 議事録

日時：令和3年11月17日（水）

18時30分～19時50分

場所：岩美町役場 大会議室

1. 開会

2. 挨拶

小西会長：支援が必要な人になかなか助けが出せないが、町の様々な事業を、私たちが足を運ぶコミュニティで周知させることが自分にできること。今回様々な事業を勉強するつもりで参加している。

松本課長：子ども・子育て支援事業計画に基づいて施策を進めている。人口減少には歯止めがきかないが、出生数は多くなってきている。新型コロナウイルスの影響で生活様式も変化し、新しい課題も出てきた。子どもを巻き込んだ事件・事故やヤングケアラー等の社会的な課題も考えないといけない状況。そのような中で町が行う子どもに関する事業について、委員の皆さんに評価していただき、ご意見をいただきながら進めていければと考えている。

3. 委員自己紹介

4. 議事（敬称略）

（1）主要事業の取り組み状況

広富：資料「岩美町子ども・子育て支援事業計画主な事業の取り組み状況」に基づいて、新しい事業・主だった事業を中心に説明。令和2年度子育て世帯への臨時特別給付金、令和3年度子育て世帯生活支援特別給付金及び児童虐待防止の活動についても追加説明。

昨年度のこの会で出た質問について。保育所のお便りの写真が見にくいので電子化してはという話については、行事をケーブルテレビで流したり、人数を絞ってなるべく参加してもらえようとした。放課後児童クラブで気になるお子さんについては、情報共有を行い、学校の協力をいただいて対応を行ない、引き続き見守りをしている。

小西：目に関する相談事業の件数が多いが、主に視力を検査しているのか。

河上：子育て支援センターで月1回の相談会、巡回相談として保育所、健診会場で3歳児と5歳児に実施している。機械は目の屈折率を計るもので、弱視・近視・遠視・乱視・不同視・左右差の異常を見る。自分で言えない子どもでも機械でわかる。視力ではなく、目の見え方の異常を早めにスクリーニングできる。

小西：前回保育所の写真の事で福村さんに意見をいただいたが、その後はどうか。

福村：今年も行事が中止される中で、緩和されつつあることもある。行事を見に行けたり、ケーブルテレビで流していただいたり。保育所でも担任の先生が様子を教えてくれたりして、昨年度より様子が分かるようになってきた。写真で様子が見れるとありがたいが、できる範囲で取り組んでいただいている。

日下部：健診の時ブックスタートで読み聞かせをしていたが、1対1の近い距離でしていたので、コロナ感染が広がってからストップしている。いい活動だと思うが、再開できないか。

松本：コロナでやりたいことができない状況。他の団体の意見を聞いたりして、工夫できることがあれば、いつからとは言えないがやっていきたいので、情報があれば教えていただきたい。

小西：子育て短期支援事業は、何泊か利用しているか。場所は。

広富：希望に応じて宿泊で預かっている。鳥取と青谷のこども学園で実施している。

橋本：目の相談があるが、耳の相談のこと。滲出性中耳炎は痛くないので気が付かないが、続くと難聴になる。耳が悪くなって分かる。もしかしたら知られていないかもしれない。親が気が付くのが第一なので、健診で周知してはどうか。

後藤：おっしゃる通り。耳鼻科なら続けて薬を出すか、小児科では急性の痛みが治った後に来られなくなることがよくあり、耳鼻科と連携が必要。意外と中耳炎は困る。難聴は歩き方で分かることがある。

松本：町としても、健診時には保健師や医師がいるので相談してもらいたいし、耳に限らず子ども特有の病気について広報誌に入れたり、子育て支援センターを通じて情報提供していただけたらと思う。

若松：スクールソーシャルワーカーの活用とあり、不登校が増えていると思うが、活用の状況を知りたいのと、役場として保護者に情報発信していただけたら。

山田：不登校の状況は、コロナが始まってから風邪症状ですぐ出席停止になるので、不登校が増えているかは分かりにくいですが、30日以上欠席で不登校の扱いになる。細かい支援内容は言えないが、スクールソーシャルワーカー1名を配置して、学校と協力して家庭訪問等の対応をしている。場合によってはスクールカウンセラーに紹介したり、専門機関につないだりしている。

松本：スクールソーシャルワーカーには、子どもの支援を検討するケース会議で、医療につなげた方がいい等の意見をもらったり、学校と家庭・子どもをつないだりしてもらっている。

若松：保護者の方が悩まないように気にかけていただけたら。

(2) その他（意見交換）

中村：保育所の運営について。延長保育事業は申込しておかないと利用ができない。1回利用したら1月分の利用料を払わないといけない。母親は1日働いているが、土曜日は12時まで。16時半までの短時間保育と18時までの長時間保育に分かれているが、16時半を過ぎた子どもは延長保育にならないのか。なぜそこで振り分けをするのか。それについてはどこにも載っていない。（注：短時間保育は16時まで）

松本：一つずつの対応については、今はできないが、延長保育の規則を作った時は月単位で毎日19時まで勤務する人を想定していたと思う。一つずつを今の生活に合わせることはできないかもしれないが、それに代わるものや対応できるものを検討していけたら。個人的な意見になるかもしれないが、子育て支援は大人向けのところがあるが、子ども目線での支援も考える必要があると思っている。行政だけでできないところもあるので、家族や地域の協力を得ながら、子どもをどう健やかに育てていくかということになると思う。

森：延長保育を月単位と決めるのではなく、連絡した時点で了承が得られたら1時間500円で利用できるような料金設定があると、親として納得いくのでは。先生方のシステムがあるのでいいですとは言えないかもしれないが、市内で働いている親が多く、仕事が終わって家事があるので急いで帰ってくる。ワンコインで1時間延長できれば安全に帰れ、安心感もある。

病児保育はアンケートを取ると利用しにくいという声がある。無償化にはならないか。県外からの人を受け入れる場合、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に来る人は少ない。子どもが病気になった時に頼めるところが限られている。安心して預けられる場所がないのが親は不安。おじいちゃんおばあちゃんや義母に預けるのも不安な面がある。高齢化が進んで、預かってくれるおじいちゃんおばあちゃんも少ない。無償化若しくは共済のようなものを作って月や年で少額の金額を払って何回利用してもいいようになるという。

服のリサイクルの場はないか。

松本：病児の料金無償化については、ご意見はいただくが、難しいと思う。

田中：リサイクルの記録は残っていないが、以前子育て支援センターにボックスを設けたこともあった。受け入れたものの管理のことがあったか、今はしていない。

松本：制服や体操服のリサイクルをする団体があると聞いたことがあるが、町としてはやっていない。

福村：今現在、病後児保育で預かってもらう条件は。

広富：鳥取県のコロナ警報・注意報が出ていないこと。診察の結果、37.5度以上の熱がある場合は病名が分かっていること。

福村：コロナが落ち着いたら預かってもらえるか。

広富：何をもって落ち着いたというかは話し合いをしていく必要があるが、受け入れられる状況になれば条件も変わってくると思う。

後藤：岩美病院の病後児室は救急外来の隣にある。コロナ疑いの人が待っている中、ドアの開け閉めをすることになる。部屋の移動も考えたが、対応できない。その場所でコロナをうつさないという担保ができない。コロナの症状は甘くない。40歳代でも救急搬送になる人がいる。子どもにうつって、それを家に持って帰ってほしくない。安易に来てくださいとは言えない状況。

小西：前回ワクチンを打っても安心できない話を聞いて、今日も感染者が少なくとも油断ができないと改めて思った。

片瀬：私も病後児保育の保育士をしているが、コロナ前もインフルエンザの患者の横を通るのは怖かった。部屋の場所は替えられないか。

松本：今のところは替えられないと思っている。岩美病院と相談しながら今後を考えていけないといけない。

松本：今日いただいたご意見を来年度予算に活かしていければと思っている。

5. 閉会

中原副会長：今日はたくさん貴重なご意見をいただき、有意義な会になった。これからも岩美町の子育て支援事業を充実していけたらと思うので、皆さんの協力をお願いしたい。